

久留米工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	リベラルアーツ特論1 (コミュニケーション学入門)
科目基礎情報					
科目番号	4ER05		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	電気電子工学科		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	池田理知子『日常から考えるコミュニケーション学』（ナカニシヤ出版）				
担当教員	横溝 彰彦				
到達目標					
1. コミュニケーション学の理論を理解し、自分自身のコミュニケーションを改善できる。 2. 自分と社会とのつながりを理解できる。 3. 自分でまとめた内容を発表し、他の受講者と議論することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
自分のコミュニケーションの特性	自分のコミュニケーションを改善する。		自分のコミュニケーションの特性に気付くことができる。		コミュニケーション学の理論を理解できない。
社会とのつながり	自分が社会に与えることができる影響を理解できる。		自分が社会から受けている影響を理解できる。		自分と社会とのつながりを理解できない。
議論	自分の考えをまとめ、発表し、他の受講者と議論することができる。		自分の考えをまとめ、発表することができる。		自分の考えをまとめ、発表することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	前半の授業では、日々のコミュニケーションに関する理論を学び、自分自身のコミュニケーションを振り返る機会を設ける。 後半の授業では、自分自身と社会との関わり合いを学び、個人が社会に影響を与え得る存在であることを学ぶ。				
授業の進め方・方法	前半の授業では、コミュニケーション学の理論に関する講義を受け、ディスカッションを行い、授業の最後に理解度を測る小テストを受ける。 後半の授業では、各人が教科書のテーマから好きなものを選択してその内容を教授するプレゼンテーションを行い、レポートにまとめる。				
注意点	(1) 点数配分：小テスト60%、発表20%、レポート20% (2) 評価基準：60点以上を合格とする。 (3) 再試験：再試験は行わない。課題を与えることがある。 (4) 事前学習：予習として教科書を読んでおき、発表の準備を行っておくこと。				
授業の属性・履修上の区分					
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス アイデンティティ	授業の進め方や課題について理解する。 アイデンティティの種類や性質について学び、自分のアイデンティティについて考える。	
		2週	言語コミュニケーション	言語を用いたコミュニケーションの性質を学び、自分の考えをより効果的に相手に伝える方法を学ぶ。	
		3週	非言語コミュニケーション、対立への対処	言語を用いないコミュニケーションの性質や対立時の対処を学ぶ。	
		4週	グループでの役割、リーダーシップ	グループでの役割やリーダーシップについて学び、自分が得手不得手な分野を知り、集団内での自分の立ちまわり方について考える。	
		5週	男女のコミュニケーション	男女のコミュニケーションの違いについて学び、自分と異性とのコミュニケーションについて考える。	
		6週	男女の友情	男女の友情の違いについて学び、自分と異性との関係性について考える。	
		7週	自民族中心主義、ステレオタイプ、偏見、差別	他者へのネガティブな考えや行動の原理について学び、対処を考える。	
		8週	発表準備	担当章を決定し、発表準備を行う。	
	2ndQ	9週	発表 1	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		10週	発表 2	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		11週	発表 3	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		12週	発表 4	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		13週	発表 5	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		14週	発表 6	自分でまとめた内容を発表し、他の受講者とディスカッションを行う。	
		15週	まとめ、成績確認	これまでの授業で学んだことをまとめる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	小テスト	発表	レポート		合計
総合評価割合	60	20	20	0	100
基礎的能力	60	20	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0